

令和3年度 洋光台地域ケアプラザPDCAシート_公表用 (事業計画書、事業報告書、事業実績評価)

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

洋光台は住宅地(集合住宅と戸建て)と洋光台駅周辺の商業地からなり、高齢化率が磯子区平均を上回る31.9%となっています。高齢者世帯(単身世帯を含む)の割合も高く、消費者被害も多いことから、見守り支援など地域での支えあいの体制が課題となっています。地域では高齢者の食事会や交流サロン、認知症カフェなどの活動が活発に展開されていますが、コロナの影響で自粛が続いています。また、エレベーターのない集合住宅や坂道も多く、外出の自粛と相まって高齢者や障害者の行動制限、脚力低下・フレイルの要因にもなっています。一方、集合住宅等には若い世代も多く、子育て支援や世代間交流の機会も必要となっています。この点についても、プレイパーク等の地域ぐるみの子育て支援や世代間交流を目的とした様々な活動が展開されています。一方で担い手不足の状況もあり、新たな担い手の育成も課題となっています。

地域の活動やケアプラザの事業がコロナに大きく影響されるなか、今年度から始まる第4期スイッチON地区別計画に沿って、今できること、今しかできないことを考え、地域活動の支援、個別相談、自主企画事業に取り組んでいきます。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	よこはまウォーキングポイントを広めることで、高齢者の運動・外出の機会を増やします。各事業や地域のサロンなどで積極的に宣伝し、アプリ講座なども開催します。また、コロナ感染予防とフレイル予防の両立を目指し、洋光台北部・南部双方で、公園でのウォーキング講座を中心とした、新しい形での介護予防講座を実施します。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	磯子区版エンディングノート、相続遺言・葬送等に関する連続講座を開催します。コロナ禍を受けて変化してきた現在の状況や新しい知見を踏まえ、地域住民に分かりやすく、関心を持てるような普及啓発を行います。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	「地域活動ネットワーク・洋光台“わっふる”」で、毎月定例会を実施します。様々な団体・立場の人の参加を仰ぎ、地域課題やアイデアを話し合いながら、コロナ禍でも行える取り組みを検討し工夫して実施します。その中で、新たな関わり・活動の拡がりとなるよう働きかけていきます。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	新しいつながりの手段として高齢者がスマートフォンを活用できるよう、高齢者を対象としたスマートフォン講座(入門編・LINE体験編)を実施します。スマートフォンを使ったサロンを運営している団体に、講座の参加者を繋げていきます。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

昨年からのコロナ禍を受け、今年度も様々な影響・制約の元での事業運営となりました。中でも、少しずつ事業や地域の活動が再開され、2階の貸館もかなり回復してきました。また、年度を通して主任ケアマネジャーの欠員が解消出来ず、職員間で協力して事業運営にあたりました。

上記取組みに関しては、概ね計画通りに取組め、目標を達成できました。

昨年より延期されていた洋光台50周年記念行事(式典やハロウィン等)が開催され、主に両コーディネーターが側面支援を行いました。

新しい取り組み、事業としては、男性の社会参加をテーマとした協議体から、男性のまちづくりネットワークが立ち上がりました。また、読書推進活動としての『本ふれんど』の立ち上げ、日野中央高等特別支援学校との協働での裁縫ボランティア『布和布和』などにも取り組みました。

地域の新たな動きとして、re net結のサービスB立ち上げや、レインボーこども食堂の開始など、コロナ禍においても活発な洋光台の地域活動を支援しました。

スイッチON磯子は今年度から第4期が始まりましたが、地域に浸透しているとは言えない状況があります。どうすれば広められるか、地域の方と一緒に検討していきたいと考えています。

区からのコメント

職員数が不足している中、地域ケアプラザ全体で様々な事業に取り組み、目標を達成していただきありがとうございました。継続事業、新規事業の両方に取り組みされており、引き続き地域に根ざした施設運営をお願いします。第4期スイッチON磯子の周知に関しては、区役所も一緒に考えていければと思っています。

コロナ禍でも積極的に事業を展開し、具体的な動きに結実しています。一例として、男性のまちづくりネットワーク、タクシー会社と連携した外出企画など、今後さらなる発展を見据えた取組の、大きな一歩が踏み出されたと感じています。引き続き、区も連携しながら、地域の方々の主体的な活動の促進、支援をしていきたいと考えています。